

2024年11月14日

各位

会社名 Kudan 株式会社  
代表者名 代表取締役 CEO 項 大雨  
(コード番号 4425 東証グロース)  
問合せ先 取締役 CFO 中山 紘平  
(TEL. 03-4405-1325)

## 決算説明動画及び決算説明スクリプトのオンライン配信のご案内

当社は、2025年3月期第2四半期決算説明動画及び決算説明スクリプトをオンラインにて配信いたします。以下の決算説明動画 URL からご覧いただくか、本案内で公開するスクリプトをご参照いただきますようお願いいたします。

### 【2025年3月期第2四半期 決算説明概要】

- 公開日時：2024年11月14日（木）
- 説明者：代表取締役 CEO 項 大雨  
取締役 CFO 中山 紘平

▼▼決算説明動画はこちらからご確認いただけます▼▼

[https://youtu.be/3gFdzRo\\_93w](https://youtu.be/3gFdzRo_93w)



# 2025年3月期 2Q決算説明

2024年11月14日

Eyes to the all machines

©Kudan. All Rights Reserved.

項大雨（以下、項）：Kudan 代表の項です。2025 年 3 月期 2Q 決算説明を行います。

## 2Qまでのハイライト



- 2Qまでの売上1.5億円は前年同期比で倍増して伸長しており、通期予想の7億円に向かって業績は進捗（期末集中の傾向は例年と変わらず）
- 成長の二本柱に沿った取り組みで事業進捗
  - A 顧客製品化<sup>1</sup>
    - 顧客製品化の達成案件数が前期比でペースが数倍に加速
    - 製品関連売上<sup>2</sup>も前年同期比で18倍で伸長<sup>3</sup>
  - B ソリューション化<sup>4</sup>
    - 欧州・日本を中心にグローバルで公共案件が拡大・進捗中
    - Whale Dynamic社・XGRIDS社との技術連携拡大も大きく寄与
- 第18回新株予約権による資金調達で、黒字化までの経営計画に沿った運転資金・投資資金は全て確保済みとなり<sup>5</sup>、安定した財務を基盤に事業成長を目指す

1. 当社の直接顧客が当社技術を製品に採用し、その顧客製品のリリースを決定する案件の転換点

2. 当社技術・ソリューションを利用した実用化（製品販売や社内外のサービス運用）が可能な売上

3. 前期2Q時点で0.06億円に対して、今期2Q時点で1.1億円

4. 当社のディープテック（深層技術）を直接採用する顧客層だけではなく、協業先との事業コーディネートを通して最終顧客向けソリューションを構築すること

5. 第18回新株予約権による資金調達の99%は完了、2Q時点で現預金残高30億円と想定した資金を確保済み

項：まずは 2Q までのハイライトです。

数字面では、2Q までの売上 1.5 億円は、前年同期比で倍増して伸長しております。なお、売上の期末集中の傾向は、今期も例年と変わらない状況にあり、通期予想の 7 億円に向かって業績は進捗しております。

事業面では、成長の二本柱である顧客製品化とソリューション化に沿った取り組みにおいて、事業進捗しております。顧客製品化につきましては、その達成件数が前年比でペースが数倍に加速しており、製品関連売上も前年同期比で 18 倍で伸びております。

ソリューション化についても、欧州と日本を中心にグローバルで公共案件が拡大して進捗しておりますが、パートナー企業である Whale Dynamic 社や XGRIDS 社との技術提携もそこに大きく寄与しております。

また、財務面では、第 18 回新株予約権による資金調達で、黒字化までの経営計画に沿った運転資金・投資資金は全て確保済みとなりました。この安定した財務を基盤に事業成長を目指してまいります。

## 業績

- 売上高は前年同期比で倍増して進捗しており、通期予算の達成を目指す
- 営業利益は前年同期比で同水準で推移。一方、経常利益・純利益の悪化は為替差損益による会計処理であり、キャッシュフローおよび事業を反映したものではない

[百万円]	前期 (24/3)		当期 (25/3)		
	2Q	通期	2Q	通期 (予想)	
売上高	73	490	148	700	顧客製品化とソリューション化の進展により前年同期比+102%と倍増 期末までに大型案件デリバリーを見込み、期首時点の予想は維持
営業利益	△395	△527	△437	△430	さらなる事業拡大にむけた体制強化や資金調達の実施によりコスト増、利益水準は前年同期と同水準
経常利益	△111	△50	△519	-	円高進行によりグループ内債権・債務から為替差損0.7億円を計上 (逆に前期は大幅な円安により為替差益2.8億円)
純利益	△117	△69	△553	-	

3

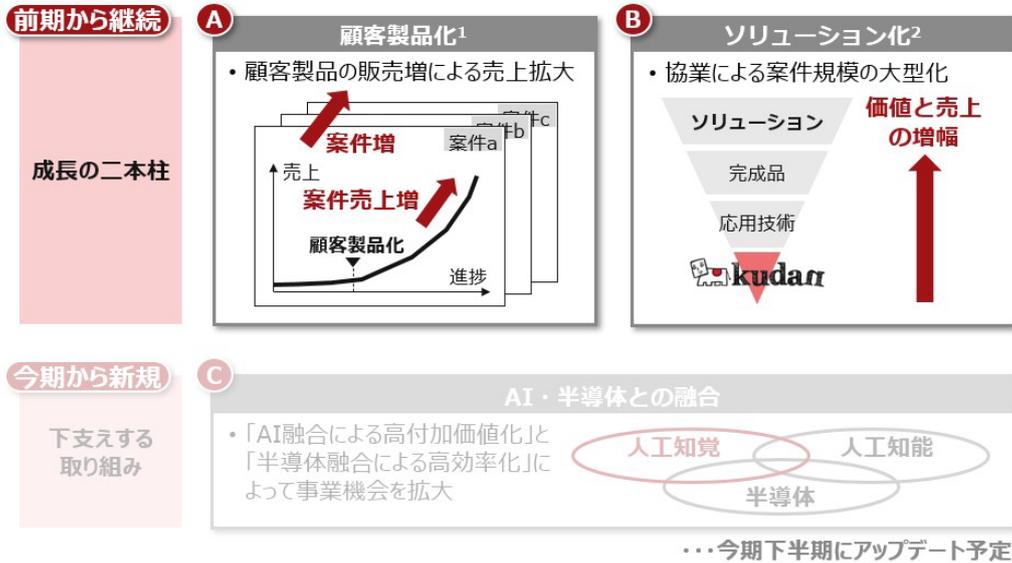
中山紘平（以下、中山）：2025年3月期第2四半期の業績について、CFOの中山よりご説明いたします。

まず、第2四半期までの進捗状況について前年同期と比較しますと、売上高は倍増のペースで順調に拡大しています。コストについては、今後の事業拡大に向けた体制作りとして、人材や財務の強化を行ったことにより、前年と比べて増加して進捗しています。この結果、営業利益は前年同期とほぼ同水準での進捗となっています。

経常利益以下については、前期が大幅な円安により多額の為替差益が生じたのに対し、当期はここまで円高で進んでいることから、為替差損が生じています。これにより、経常利益以下の会計上の損失は拡大していますが、これはあくまでグループ内の債権・債務を連結決算上相殺する際に生じた会計処理上のものであり、実際にキャッシュフローが動くものではなく、また、事業活動を反映したものでもない点にご留意ください。

通期の業績予想に向けた進捗については、売上高は下期に見込む複数の大型案件のデリバリーなどにより、予算達成を目指してまいります。コストについては、下期も継続的な人材の強化を推し進めるため、コストの増加傾向は継続する見込みですが、売上拡大を進めて、営業利益の予算達成を目指してまいります。

— 今期は「成長の二本柱」を継続し、加えて下支えする取り組みにも注力



1. 当社の直接顧客が当社技術を製品に採用し、その顧客製品のリリースを決定する案件の転換点  
 2. 当社のディープテック（深層技術）を直接採用する顧客層だけではなく、協業先との事業コーディネートを通して最終顧客向けソリューションを構築すること

項: 今期は、前期から継続している顧客製品化とソリューション化の二つを成長の二本柱と位置付け、事業の取り組みを進めております。

顧客製品化は、Kudan の直接顧客が自社製品への Kudan 技術採用を決定する各顧客案件のマイルストーンとして、開発フェーズから刈り取りフェーズに向けての転換点と位置付けております。

ソリューション化は、Kudan のディープテックを直接採用する顧客層だけではなく、協業先との事業コーディネートを通して最終顧客向けソリューションを構築することで技術の価値と売上の増幅を目指しています。

それぞれの進捗についてご説明いたします。

## A 顧客製品化

- 今期から顧客製品化<sup>1</sup>の達成案件数が加速。前期（4件）・前々期（4件）から大幅増となる7件を2Qまでに達成しており、下半期にも重要案件の製品化がひかえる
- 結果として2Qまでの製品関連売上<sup>2</sup>は1.1億円（前年同期比で18倍）と、今期2.5~4億円予想に向けて順調に伸長



1. 当社の直接顧客が当社技術を製品に採用し、その顧客製品のリリースを決定する案件の転換点  
2. 当社技術・ソリューションを利用した実用化（製品販売や社内外のサービス運用）が可能な売上

項：まずは顧客製品化の進捗についてです。

今期から顧客製品化の達成件数が大きく加速しています。前期4件、前々期4件と比較して大幅増となる7件を2Qまでに達成しております。

特にロボティクス領域での顧客製品化が続いており、ヤマトホールディングス社の出資先でもある中国のYours Technologies社の自動搬送ロボット、日本大手自動車グループ傘下にある米国ロボット企業のトラック積み込み用自動搬送ロボット、欧州Squad Robotics社の自律走行ロボット、米国ロボット会社や台湾NexAIoT社の自動搬送ロボットなど、工場や商業施設を中心に、難易度の高い屋内外走行や人が混在する環境にも対応した高性能な自律走行に採用されております。

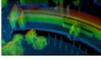
加えて、台湾のVecow社や日本のHPCシステムズ社など、開発向けキットとして、ロボット会社や産業DXソリューション会社向けの製品にも採用が広がっています。

これまでの顧客製品化の実績がさらなる顧客製品化を呼び込む形で、このような事業進捗は加速して続くと見込んでおり、中国ロボット企業、欧州物流企業、米国ブロードキャスト企業など、下半期にも重要案件の製品化を控えております。

このような進捗の結果として、顧客製品化後の刈り取りである製品関連売上も1.1億円と前年同期比で18倍と大幅に伸びており、今期予想の2.5から4億円に向けて順調に伸長しております。

## B ソリューション化

- 公共性の高いインフラ・アセットなどをデジタルツイン化する公共案件を中心にグローバルで進捗。加えて、ソリューション向けの戦略的な技術提携も拡大し、事業成長に相乗効果

	案件の概要	2Qでの進捗		
公共案件の拡大	 ドイツ 公共施設管理	・ドイツの学校施設（約2千の空間）をデジタル化し管理する計画。ドイツ国として初のプロジェクト	・検証が進捗、3Qに完了予定。以降大規模化を目指す	
	 フィンランド デジタル林業	・農林省が推進する森林管理と林業自動化に向けたデジタルツインソリューション開発を支援	・開発が継続、加えて同分野向け追加発注を獲得	
	 日本 インフラ管理DX	・政府主導・大規模のインフラ管理DX化に向けたデジタルツイン活用計画を大手企業と連携し支援	・複数年規模の開発に向けた案件準備を完了、今期開始予定	
	 台湾 スマート造船所	・政府主導のスマート造船プロジェクトに必要なデジタルソリューションを支援。MacroInsightと提携	・2Qに受注・技術提供を実施し検証が進捗、来期へ継続予定	
	 日本 ロボット関連	・(Coming soon) 政府・公共関連のロボットソリューション開発を支援	・複数年規模の開発として今期受注見込み	Coming soon
	 欧州 大手物流	・(Coming soon) AI統合を含むアセットマネジメントのための次世代ソリューション開発を支援	・今期受注・初期フェーズ完了見込み	Coming soon
戦略提携の拡大	 XGRIDS 共同事業拡大	・業界最先端マッピング機器を活用し、建設・不動産・インフラ産業向け販売・ソリューション化を推進	・上記複数の案件向けに技術連携を実施、今後拡大予定	
	 Whale Dynamic 共同事業拡大	・自動運転・ロボティクス・車載向けマッピング向けに多角的な技術・事業連携を展開。出資先	・開発が進捗し、下期に車載向け技術をソリューション化へ	

6

項：続いてソリューション化です。

今期は公共性の高いインフラ・アセットなどをデジタルツイン化する公共案件を中心に、グローバルでソリューション化が進捗しています。

具体的には、ドイツの学校施設のデジタル管理プロジェクト、フィンランド農林省が推進するデジタル林業プロジェクト、日本政府主導のインフラ管理 DX プロジェクト、台湾政府主導のスマート造船所など、検証・開発が継続しており、今後の大規模化に向けて進捗をしています。

加えて、新たに今期から開始する見込みの案件として、日本政府主導のロボットソリューション開発プロジェクトや欧州大手物流が手がける次世代 DX ソリューションなどが控えており、各国政府や公共セクターとの連携を拡大しながら大規模なソリューション案件の獲得を継続していきます。

また、このようなソリューション化の取り組みにおいて、Kudan のディープテックと関連技術との連携・統合を通してより最終顧客に近いソリューションを構築しておりますが、戦略的なパートナー企業である XGRIDS 社や Whale Dynamic 社など自動運転、ロボティクス、マッピング向けのソリューション構築に必要な技術的協業も展開を加速しており、ソリューション化案件の獲得・拡大に大きく貢献をしています。

一部案件抜粋<sup>1</sup>

	顧客企業	案件概要	リリース
デジタルツイン	 大手通信	スマートシティ向けデジタルツイン	
	 大手エネルギー	設備管理向けデジタルツイン	<a href="#">リンク参照</a>
	 大手総合電気	多用途モバイルマッピングデバイス	
	 大手鉄道関連企業	鉄道インフラメンテナンス向けマッピング	<a href="#">リンク参照</a>
	 大手建設企業	建設DX用製品向けパッケージ	<a href="#">リンク参照</a>
	 マッピングソリューションメーカー	多用途モバイルマッピングデバイス	
ロボット	 国立大学法人	デジタルキャンパスの構築	
	 大手重工	産業用屋外物流の自動化	
	 日系大手自動車メーカー	自動運転乗用車・ロボタクシーサービス	<a href="#">リンク参照</a>
	 日系大手自動車メーカー	プラットフォーム型自律移動モビリティ	<a href="#">リンク参照</a>
	 EUSPA (欧州連合宇宙計画局)	GPS信号がない環境での自動運転	<a href="#">リンク参照</a>
	 川崎重工業	四足作業ロボット	<a href="#">リンク参照</a>
	 NASA (米国航空宇宙局)	月面探査ロボット	<a href="#">リンク参照</a>
	 産業用機器メーカー	クリーニングロボット	
	 大手物流機器メーカー	物流運搬車両の位置検知システム	
 大手自律走行ロボットメーカー	工場向け自動搬送ロボットの高機能化		

1. 2Qまでの事業進捗が大きい案件のうち、前ページまでに記載のない案件を抜粋。ここに記載のない案件も多数進行中。

7

項:以上、顧客製品化とソリューション化中心に事業進捗と案件進捗を説明してまいりましたが、将来的な顧客製品化に向けた開発支援や、新たなソリューション化に向けた技術的・事業的な構築を推し進める案件は、その他にも多く展開しております。

具体的には、デジタルツイン向けには、スマートシティ、鉄道、建築、デジタルキャンパスなど多様な産業セクターへの実用化に取り組んでおり、また、ロボティクス向けには、産業用途から、ロボットタクシー、自動運転、四足歩行ロボット、月面探査など、非常に幅広いロボティクス分野に向けた技術応用を推し進めております。

こうした幅広い案件の顧客製品化とソリューション化を実現していくことで、着実な事業成長に結びつけてまいります。

以上で、2025年3月期2Qの決算説明を終わります。

※決算説明の内容に関するご質問につきましては、下記の問い合わせ先にて頂戴いたします。また、ご希望の会社様には、個別取材も承りますので、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

■会社概要

会社名: Kudan株式会社

証券コード: 4425

代表者: 代表取締役 CEO 項 大雨

■お問い合わせ先は [こちら](#)